

おわりに

私が育った時代は、茶の間に家族が集まり、テレビを見たり、お茶を飲みながら話をしたりする時間が毎日ありました。コーヒーや紅茶、ハーブティなどのおしゃれな飲み物はなく、お茶と言えば、緑茶でしたが、「お茶の間タイム」は、安心できる、居心地のいい時間でした。時代が変わっても静岡茶の良さを舌で覚え、お茶を楽しめる大人になってほしいと切に願っています。

今年、東小学校は「つながる食育推進事業」の指定を受け、4、5、6年生や家庭教育学級を中心にお茶の学習をしてきました。県の特産品であるお茶について学び、お茶を通して学校、家庭、地域がつながることができ、そこには、様々な出会いがありました。この出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。取り組みの中で、いろいろな方においしいお茶の淹れ方を教わるチャンスがありました。本当においしく淹れられて、急須から湯飲みに注がれる緑色の美しさや香りの良さに驚きました。温かいお茶も冷茶もおいしく淹れられ、感動の連続でした。「食」でつながるとき、たくさんの笑顔があり、人の輪が広がりました。現代は、昔よりも時間に追われてしまう毎日かもしれませんが、一服のお茶から、令和流の「お茶の間タイム」が生まれ、お茶や食を通して心がつながっていったら素敵です。このような機会をいただき、心より感謝申し上げます。

裾野市立東小学校長 山中 なほみ

つながる食育推進事業の取り組みを通して、身近な地域での茶摘み体験や給食で静岡茶を使用した献立を提供し、献立表や給食便り・ホームページで紹介したことにより、家で一緒に調理する子どもが増え、家族や地域とのつながりが増えました。また、授業の中で、日本茶インストラクターにおいしいお茶の淹れ方を学んだり、茶道体験を通して社会科の授業で習った日本の文化に触れることができたりしたこともお茶を身近に感じられるいい機会になりました。さらに、学校保健委員会でも「ふじのくに茶の都ミュージアム」副館長を講師として招きお茶について保護者と共に楽しく学んだことと学校医からもお茶の効能について説明があったことで、家でもお茶を飲むようにしたいという意見が多く聞かれました。この事業に取り組むにつれて子ども達が、お茶を知り、お茶を楽しみ、お茶に関わってくれた人たちを大切に思う気持ちが育っていったことを感じました。子ども達は、人と人とのつながりの中で自分たちが生きていることを実感したことと、自分たちの住む富岡の恵に気づき、自分の生まれたところは素晴らしいと感じたこと、さらに、関わってくれたこの地域に住む人たちも元気になっていったことがとても素晴らしいと感じました。今後もこの取り組みを続け、地域に根付いた子ども達にたくましく育ってほしいと願っています。

裾野市立富岡第一小学校長 勝又 和仁



【令和元年度 文部科学省委託】

つながる食育推進事業 報告書

—— 静岡茶でつながる学校・家庭・地域の食育 ——

令和2年2月発行

【発行所】 静岡県教育委員会 健康体育課
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
tel.054-221-3176 fax.054-273-6456

【印刷所】 八千代印刷株式会社